

南九州畜産獣医学拠点事業

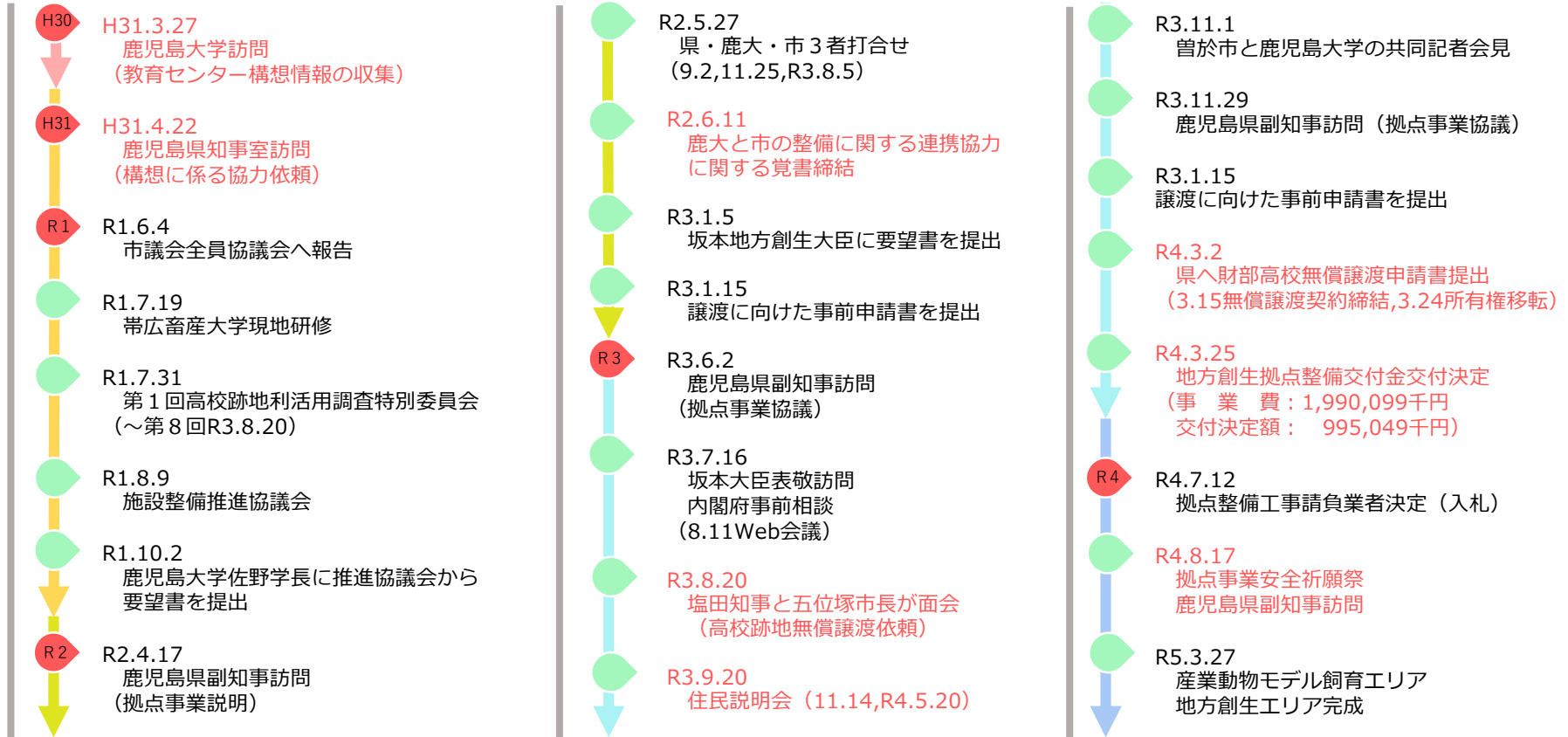


鹿児島県曾於市



南九州畜産獣医学拠点
South Kyushu Livestock Veterinary center

南九州畜産獣医学拠点の経過



曾於市の概要と課題

-01- 曾於市の概要

鹿児島県の東北部
宮崎県との県境に位置する海のな
いまち。

DATA



アクセス
鹿児島・宮崎空港から
約1時間
鹿児島市内から
約1時間10分

人口	:	33,187人
(令和5年5月現在)		
世帯数	:	17,356戸
高齢化率	:	43.0%
面積	:	390.14km ²

-02- 畜産のまち、曾於市

基幹産業は農畜産業。
鹿児島県内でも特に畜産が盛んな地域。
令和3年度の農業産出額(畜産)は全国
第4位！

DATA

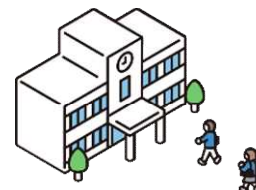


全国
第4位
(R3年度)

肉用牛	:	131億3千万円
豚	:	172億円
ブロイラー	:	53億7千万円

-03- 曾於市の課題

- 少子高齢化 ▶ 総人口の減少
若者世代の減少
(廃校の活用)
- 畜産業界の高齢化 ▶ 担い手不足
基幹産業の衰退危機
- 新しい産業の創出不足



鹿児島大学共同獣医学部の課題

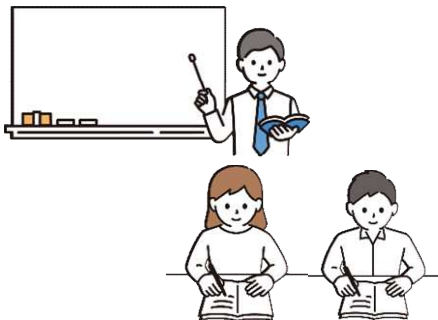
(全国の獣医学系大学)

-01-

鹿児島大学共同獣医学部

2019年12月11日，日本で初めて欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）の国際認証を取得

欧州水準の教育プログラムを実施



-02-

鹿児島大学の課題

(全国の獣医学系大学)

鹿児島大学をはじめとする全国の獣医学部系の大学は，牛・豚・鶏・馬等の産業動物の実習先不足という課題を抱えています。



-03-

畜産業界の課題

- 産業動物の実習先不足
- ▼
- 産業動物獣医師の不足
- ▼
- 畜産物の安全性の低下
- ▼
- 食肉のサプライチェーンの不安要素

基幹産業が畜産業である
曽於市にとっても大きな課題となる。



曾於市と鹿児島大学が連携して 南九州畜産獣医学拠点を整備

▼
相互の課題解決に向けて連携



4 質の高い教育を
みんなに



9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



11 住み続けられる
まちづくりを



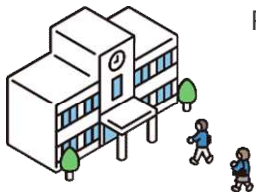
12 つくる責任
つかう責任



南九州畜産獣医学拠点事業の流れ

鹿児島県

鹿児島県立財部高校
H28.3.31閉校
R3.3 曾於市へ無償譲渡



曾於市

地域交流事業
運営支援
指定管理



南九州畜産獣医学拠点
South Kyushu Livestock Veterinary center



- ・地方創生拠点整備交付金を活用
 - ・JRA畜産振興補助金を活用
 - ・企業版ふるさと納税を活用
- R5.3 産業動物モデル飼育エリア
地方創生エリア 完成

(一財)SKLVそお

※指定管理者制度の
活用を予定

- ・産学官が連携
- ・農畜産業の振興
- ・新産業の創出
- ・各事業者は独立採算で事業を行う

運営団体

教育研究施設
(鹿児島大学)

共同研究ラボ
(鹿児島大学)

賃貸オフィス
(民間事業者)

先進モデル農場
(民間事業者)

馬エリア
(民間事業者)

南九州畜産獣医学拠点の概要

CONCEPT

- 1 将来を担う人材育成・確保**
 - ・国際的な獣医師の育成輩出
 - ・産業動物獣医師の確保
 - ・子どもへの体験学習を通して将来の畜産人材確保
- 2 畜産技術者のスキルアップ**
 - ・防疫や衛生管理のスキルアップ
 - ・次世代閉鎖型畜舎の研究開発
 - ・L5G環境によるスマート畜産の実践
- 3 産業の創出・技術革新の推進**
 - ・レンタルオフィスや共同研究ラボを整備
 - ・市にとって新しい産業を創出
- 4 動物福祉の推進**
 - ・動物福祉に配慮した家畜飼養管理の実証と教育
- 5 交流人口の増加**
 - ・馬や産業動物と人との新たな関係による交流人口の増加
 - ・アニマルセラピーによる福祉政策との連携

馬エリア



地方創生エリア



産業動物モデル飼育エリア



- ・課題解決のため、3つのエリアを整備
- ・全体事業費 約28億円



産業動物モデル飼育エリア



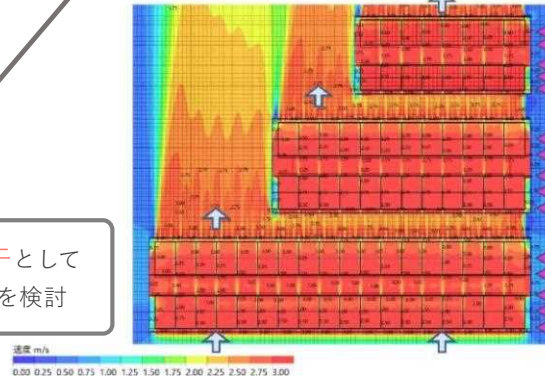
次世代閉鎖型牛舎

- 特徴1 黒毛和牛**350頭規模を一貫飼育**
出産から出荷までのすべての工程での実習が可能
- 特徴2 **次世代閉鎖型牛舎**を採用
温度・湿度などを気象センサーで管理
気流や細霧を自動制御
牛にとって快適な環境を創出（動物福祉に配慮）
バイオセキュリティ及び臭気対策
- 特徴3 L5G環境を整備
スマート畜産の実践

ブランド牛として
海外輸出を検討

次世代型畜産で畜産による地方創生を目指す。

壁面のファンにより風速
3 m/秒の気流が発生
病気を媒介する虫などを排除



研究用鶏舎

- ・ブロイラー**5,000羽規模**
- ・冬季を除く**3クール飼養**
鳥インフルエンザに配慮
- ・鹿児島大学の**研究用鶏舎**
天井にカメラ45台を設置
4種類の光色を準備
→鶏の育成状況をデータ化

地方創生エリア

整備内容

旧校舎を改修

大学が使用する研究室を整備

実習生用の宿泊施設を整備

地域住民が利用できる会議室や
交流スペースを整備

レンタルオフィス5室を整備
→新しい産業の創出

遠隔講義システム

鹿児島大学などで行われている
講義をSKLVでも受講可能



カフェスペース

SKLVを訪れる方が利用できる
カフェスペースを整備

窓の外に屋外馬場があり、馬を
見ることも可能



レンタルオフィス

レンタルオフィス5室を整備

畜産業に限らず様々な職種の
企業を募集予定

これまで曾於市にない、新しい
産業を誘致・創出



馬エリア



厩舎



屋内馬場 (旧体育館)



整備中の屋外馬場

概要

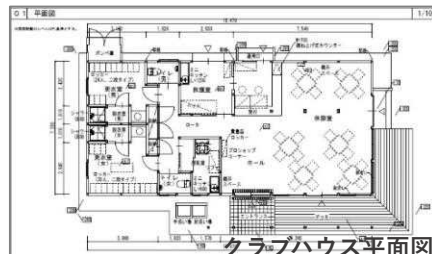
JRAの畜産振興補助金を活用
引退競走馬のセカンドキャリアの創出
獣医学生の実習に活用
乗馬体験による関係人口の増加
ホースセラピーに活用
馬の魅力を発信
修学旅行生などの受け入れ関係人口増

整備内容 (令和5年度)

20頭規模の厩舎新築
屋外馬場新築
旧体育館を屋内馬場に改修
ホーストレッキングコースを新設
クラブハウスを新築



ホース
トレッキング
コース
写真はイメージです



クラブハウス平面図

今後の展開（案）

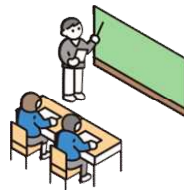
SKLV周辺の地域活性化

- ・空き家・空き店舗の活用と解消
- ・まちなみ景観の整備
- ・財部駅の利便性向上と活性化
- ・財部駅，財部市街地，SKLVを周回できるモビリティの導入を検討



子供たちへの体験学習の提供

- ・体験型修学旅行や遠足の誘致（畜産体験や乗馬体験）
- ・乗馬体験による馬の魅力発信
- ・畜産業や獣医師のキャリアデザインの見える化



次世代型農場での研修の受け入れ

- ・JGAP研修用農場での研修
- ・モデル鶏舎での研修
- ・黒毛和種一貫飼育環境下での研修
- ・次世代閉鎖型牛舎での使用技術研修



SKLV内のスペースの活用

- ・レンタルオフィスを5室整備（企業創業支援）
- ・曾於市の畜産に関する資料の展示
- ・宝春号の骨格標本の展示



SKLV内畜産物のブランド化

- ・SKLV農場で飼育している畜産物をブランド化
- ・ブランド牛・鶏の海外展開による地方創生の達成



多様な施策による
地方創生の達成



運用開始までのスケジュール

南九州畜産獣医学拠点
オープンへ

R5.3

- ・産業動物モデル飼育エリアおよび地方創生エリア 完成

R5.7

- ・地元住民へのお披露目
- ・牛飼養事業者決定
- ・地方創生エリア・馬エリア事業者公募開始等

R5.8

- ・鹿児島大学とSKLV運営に関する協定締結

R5.9

- ・SKLV設置及び管理に関する条例整備
- ・全国の獣医系大学へのお披露目

R5.12

- ・馬エリア
競馬振興特別助成金活用事業完成
- ・地方創生エリア・馬エリア事業者決定

R6.3

- ・馬エリア周辺整備事業分完成
- ・SKLVオープニングセレモニー

R6.4

- ・南九州畜産獣医学拠点オープン

鹿児島県曾於市